

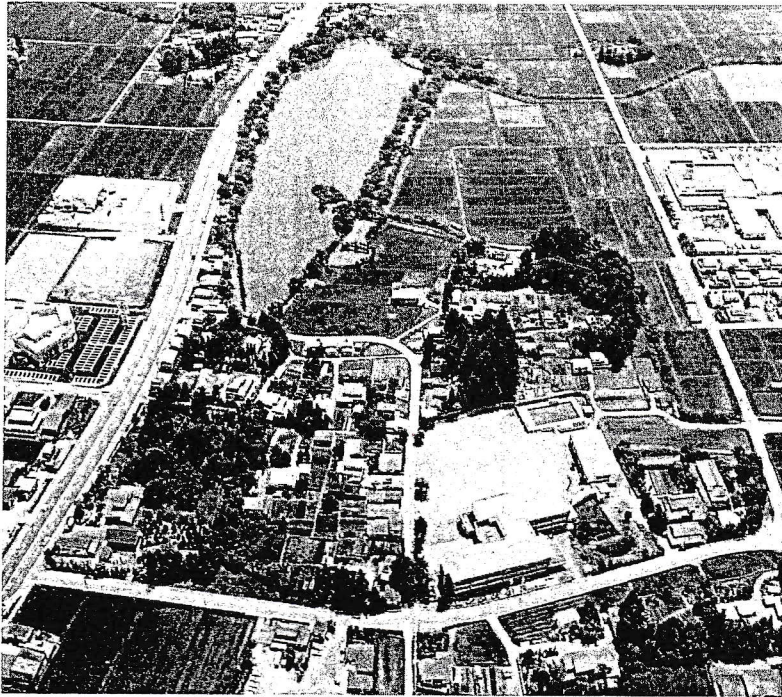
樋爪館跡

ひづめだてあと

昭和五十年三月二十五日指定

紫波町南日詰字箱清水

管理者 藤原恒久ほか



奥州平泉藤原氏の一族樋爪氏の居館跡で、鎌倉幕府の正史『吾妻鏡』あづまかがみによれば源頼朝率いる鎌倉勢の志波郡到着に際し館を焼失して北方に逃れますが、厨川で投降し太郎俊衡だけは後に許されて本領を安堵されています。なお樋爪とも比爪とも記されています。

この館の性格は、この地方の産金掌握のためとも言われますが不明です。

館跡は五郎沼を含む約十一万平方メートルに及び、現在の国道四号線から赤石小学校北側の町道、西側町道と広く堀を巡らせていたことが発掘調査によって確認され、堀の内側には多数の井戸跡や住居跡、建物跡が見つかっています。ここからは国産の陶器をはじめ中国産青磁など当時としては入手の困難なものも数多く出土しています。

藤原氏に関連する岩手県でも希に見る遺跡であり、極めて貴重かつ重要なものです。

わたしたちの文化財（紫波町教育委員会/平成5年3月）